



TAKE OFF press

TAKEO Future Frontier

【校是】質実剛健 報恩感謝

佐賀県立武雄高等学校

校長通信 NO. 16 R6. 11. 15

文責 校長 下村 昌弘

E-Mail shimomura-masahiro@education.saga.jp



学校 HP

砂山のパラドクス — 1粒の砂を積み上げていく毎日であれ —

「砂山のパラドクス」。みんなは知っているだろうか。

砂山から1粒、砂粒を取り去っても依然として砂山のまま。そこから1粒ずつ取り除いていき、最終的に1粒だけが残った時、その1粒を指して「これは砂山である」と言えるのか。

要は、砂山から1粒ずつ砂を取り除いていった時、一体どの時点で砂山は砂山ではなくなってしまうのかという問題だ。この1粒を取り除いた瞬間に砂山ではなくなってしまうという明確な分岐点があるのかどうか。逆に1粒ずつ砂を加えていった時、どの段階で砂山になったと言えるのか。「塵も積もれば山となる」という言葉もあるが、一体どの時点で塵は“山”となったのか。

“学び・勉強”にもそういうところがあるのではないかと思う。

「この問題を解いた瞬間に計算力がついた気がした」とか「いやあ、今日は読解力がついたなあ」という実感は、果たしてある一コマの授業を受けた後に持てるものなのか。英単語や古文単語など比較的語数としての量が見えやすい分野に関しても「単語力がついた」という明確な実感はどの段階で味わえるものなのだろう。

学力はある瞬間に上達したという実感が持ちにくい。砂粒を1粒1粒積み上げていってなんとなく山になってきたとか、ひと月前と比べると山が高くなったとか、そういう感覚に近い。それは長い時間取り組んだ後に振り返った時に初めて得られる達成感なのだ。

高校生活はこの砂粒を積み上げていく作業に似ているのかもしれない。その成果はすぐには目に見えるものではない。しかしきっとその山は確実に高く大きくなっているはずだ。

3年生は卒業まであと四か月余り。そう考えると焦りもあるかもしれないが、高校生活はまだまだ続く。1、2年生ならなおさらだ。2学期もここからの終盤を大切にしたい。

皆さんにとってこれからも誠実に1粒ずつ砂粒を積み上げていく毎日であってほしい。



大学入試では何が求められているのか — 学ぶ意欲と一定の基礎学力が必要 —

11月に入って総合型選抜の合格の発表が始まった。昨今、総合型・学校推薦型選抜の定員も増えたが、これに挑戦する高校生の数も増え、合格を勝ち取るのは容易ではない。大学のアドミッションポリシーを踏まえた探究活動に取り組むなど早めの準備が必要だ。

出願の際の志望理由書や推薦書を見てみると「知識・理解/思考力・判断力・表現力/学びに向かう態度のどこにおいてどのように優れているのか」を示すように求められているケースが多かったように思う。いわゆる“学力の3要素”の“売り”がその受験生のどこにあるかが求められている。

例えば「単語テストで毎回満点を取ってきた」ことで努力家をアピールするのか。それより「ザビエルがキリスト教を布教した背景を整理し、自



分が見知らぬ土地で新たな取組を始めるにあたってどうすべきかを考察」し、思考力を磨いたことを示した方が印象的だ。

要は“探究”。大学入試が何を求めているのかを考えてみてほしい。大学は間違いなく学生が多様化することを求めている。大学での学びはディスカッションやアクティビティをとおして多面的に学んだり多様な考えをぶつけあったりすることが授業の目的になっている。したがって学生が多様な考えや異なる経験をもっていた方が授業はより豊かなものになる。その意味で多様な選抜方法が講じられているわけだ。



文部科学省は大学入試においていずれの選抜方法であっても「学力の3要素」、いわゆる基礎学力と学ぶ力を評価・判定することとしている。一般選抜では筆記試験による学力試験が重んじられるが総合型・学校推薦型選抜では学ぶ意欲や主体性などに重きが置かれる。

どの選抜方法で入学した方がいいとは言い難い。大学教育にふさわしい能力を求めているわけなのでいずれの選抜においても一定程度の基礎学力は必要だ。大学入学後、学生相互に刺激しあうには学ぶ意欲、基礎学力が必要なことは言うまでもない。

3年生にとってはこれから一般選抜に向けて基礎学力を身に付ける追い込みに入る。以前「“正解のある問い”すら解けない者に、“正解のない問い”が解けるわけがない」と話した。これは『正解』つまり『答え』が大切なのではない、そこに至る『考え方』が大切なのだ」ということを裏返して伝えたつもりだ。1、2年生にとっても勉強が決して暗記に比重を置いたものに留まらないことを切に願う。

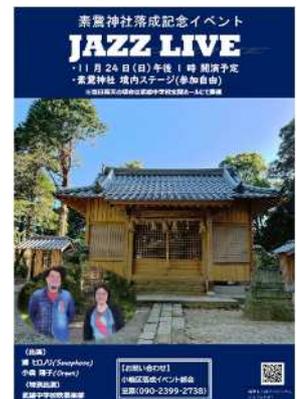
プロの JAZZ LIVE! ー小楠の神社で新築落成記念ー

武雄中学校の側（小楠地区）に素鷲神社という神社がある。この神社はもとスサ神社といわれ、スサノオノミコトを祀った由緒ある神社だ。（「武雄市重要文化財・彫刻」より）

素鷲神社と呼ばれるようになったのは平安時代末期から鎌倉時代へとかわる激動の時代。こうした長い歴史を持つ神社だが、老朽化のため140数年の時を経て今年6月に新築落成された。

今回、地域の方を広く招き、神社落成のお祝いを兼ねて、神社を中核に交流を広めたいと JAZZ LIVE が開催される。

本校生にとっては定期考査真っ只中ではあるが、プロのサクソ奏者、キーボード奏者がお見えなので、音楽や地域活性化に興味のある人は気分転換がてら覗いてみてはどうだろうか。今後の部活動や探究活動の一助となるかもしれない。（16日（土）、本校から“武雄 de 花火”の打上げもあります！）



【当面の主な予定（11月後半）】

- 16日（土）武雄 de 花火
- 22日（金）期末考査（1・2年27日まで）
- 26日（火）全統プレ（3年27日まで）
- 30日（土）土セミ

（閑人閑話）青陵中の文化発表会を見た。時間の関係で一部しか参加していないが、以前、義務教育学校に勤めていた時の思いが蘇った。それは劇の素晴らしさだ。▼ほとんどの中学生は創作劇と合唱コンクールを経験しているのではないが、同級生たちとの共同制作、力を合わせた成果がそのまま現れる。▼こと演劇に關して言えば、シナリオや演出の工夫が脱帽。これが中学生のオリジナル作品かとびつくり。涙が出た。▼涙が出たと言え、出張で沖繩に行った時に南風原高校郷土芸能部の琉球舞踊を見た。洗練された動きや目線にプロの品格を見た。しかしカーテンコールで見た笑顔はまぎれもなく高校生だった。涙腺が緩んだ。▼若い人にはエネルギーがあふれている。そんなことを言われても若い人には実感はあるまい。そこがなんとももどかしい。▼だからこそ老頭（ロートル）の身からのアドバイスを送りたい。今から数年間の間に人生のベクトルが固まっていく。今やりたいことを腹いっぱいやっておいてほしい。▼失敗とか成功とかは関係ない。失敗や成功の反対は何にも挑戦しなかったこと。全ては成長のための経験なのだ。（昌）